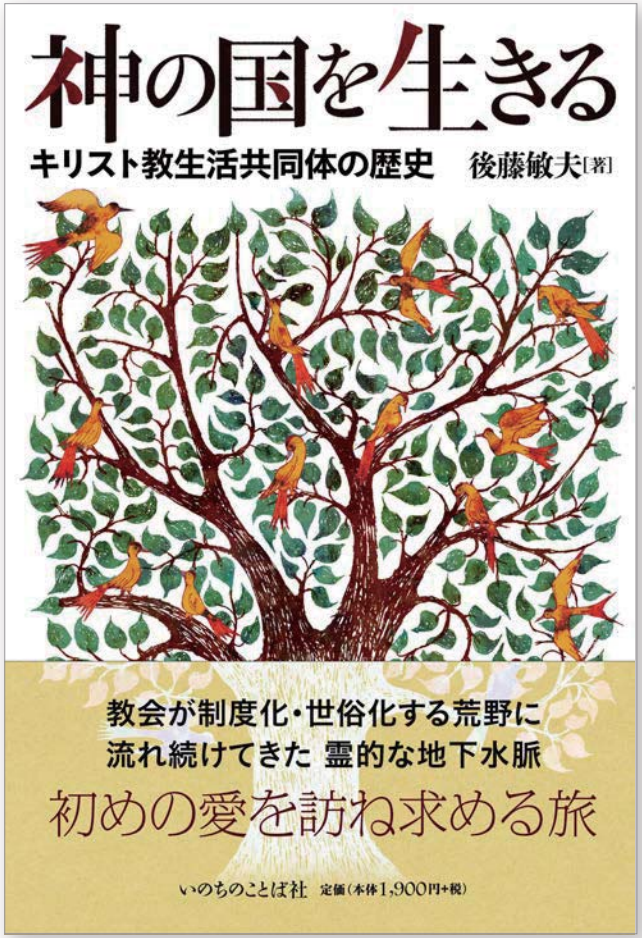

神の国を生きる

キリスト教生活共同体の歴史

後藤敏夫 著

教会が制度化し世俗化していのちを失っていくとき、神は時代ごとに荒野の預言者のような生活共同体を起こされ、霊的地下水となって今も流れている。その歴史を聖書から初期教会・中世・近現代までたどり、個人主義化する現代の信仰のあり方に初めの愛を問う。

四六判 208頁 定価2,090円(本体1,900円＋税)
ISBN978-4-264-04298-3 C0016
いのちのことば社　卸コード 19680

後藤敏夫（ごとう・としお）
1949年岩手県生まれ。聖書神学舎卒。
麻溝台キリスト教会牧師（相模原市）、大韓イエス教東京福音教会協力牧師（荒川区）、キリスト教朝顔教会牧師（世田谷区）、2011年より余市惠泉塾（北海道）で暮らし、2016年より四街道惠泉塾塾頭（千葉県）を経て、現在日本キリスト召団、惠泉四街道教会牧師として共同生活を営んでいる。著書として『終末を生きる神の民』『神の秘められた計画』（以上いのちのことば社）、訳書として『イエスの御名で』（あめんどう）等がある。